

2018年度 社保協総会終わる

新年度活動方針を確認

引き続き社会保障の充実をめざす

住民要求の実現に力を注ぐ

筑後地区社保協は六月二十九日、久留米市役所内の会議室で第十七回定期総会を開催しました。総会には代議員三十八人が参加しました。

総会議長に柴田運営委員を選出しました。中西会長は開会のあい

さつで、「国会では働き方法案、カジノ法案が国民の反対を無視して審議が進められている。政府に対して、国民の要求に應える政策を求めていかなければならない。有意義な総会にしたい」と述べました。

筑後地区社会保障推進協議会
No. 100 2018年7月9日
〒830-0012
久留米市日ノ出町55
Tel 0942-31-0356
Fax 0942-31-0357
mail: r_chikugo@yahoo.co.jp
発行責任者 久保田 猛



池田 克己 (元編集長)

祝・「やすらぎ」一〇〇号

池田 克己 (元編集長)

筑後地区社保協の機関紙「やすらぎ」発行一〇〇号おめでとうございます。定年後のある日、三原肇さん(元事務局長)と貫橋宣夫さん(現副会長)から突然「やすらぎ」の発行を依頼され、断り切れずに引き受けたのが苦難の始まりでした。何せ機関紙は初めてのことなので四苦八苦の連続でした。

りでした。何せ

機関紙は初めてのことなので四苦八苦の連続でした。

町と行っている自治体キャラバンが有意義な行事として定着しているとし、今後は地域住民の参加をより広げていきたいと述べました。



第十七回総会 久留米市役所

末次運営委員が二〇一七年度の会計報告を、尾野監事、計監査報告を行いました。

総会アピール(要旨)

第二次安倍政権が誕生してまもなく五年半になります。

この間さまざまな面で国民の反対を押し切つて悪法の成立や制度改悪が推し進められ、労働者の実質賃金はどんどん目減りする一方、「モリ・カケ」に代表される「お友達」優遇施策や、大企業・財界いいなりの政治が続けられています。

社会保障制度についても同様で、社会保障費の自然増抑制方針の影響もあり、この一年間だけでも、後期高齢者医療保険の保険料特例の廃止

した。二〇一八年度の活動方針を貫橋副会長が提案しました。憲法九条(戦争の放棄、戦力及び交

戦権の否認)と憲法25条(生存権、国の社会的使命)の旗を掲げていくことを基本としながら、「地方自治体は住民の生活を守る義務がある。悪い国の政策には異を唱える、本来の地方自治を求めて運動を強めよう」と訴えました。

二〇一八年度の予算案を末次運営委員が提案しました。この後、六分野から活動報告が行われました。テーマと発言者は次のとおりです。

□総合事業について 尾野

晃さん(くるめ医療生協)

□生活保護行政について

柴田博昭さん(久留米生活と健康を守る会)

や軽減割合の縮小、入院時の食事代や、七十歳以上の医療費自己負担限度額の段階的引き上げが企図されています。

社会保障の予算は削られ、その予算は、大企業への減税や「戦争する国づくり」のために使われています。「戦争する国づくり」よりも「すべての国民が安心して暮らせる国づくり」へ、日本国憲法を守り、命と暮らしを守る社会保障運動をこれまで以上に前進させるため、みなさんで力を合わせていきましょう!

二〇一八年六月二十九日
第十七回筑後地区社保協総会

□子どもの医療費について

稲光良子さん(新婦人久留米支部)

□年金制度について

森山義幸さん(年金者組合小郡・大刀洗支部)

□重税反対のたたかいについて

半田祥一さん(福建労北筑後支部)

□地方行政の現状について

小坪輝美さん(小郡市議)

最後に新役員の提案と総会アピールが提案され、すべての議案が拍手で確認されました。

会長 中西和也(再)、事務局 久保田猛(再)、運営委員 小坪輝美(新)

退任 竹腰昭運営委員、尾野晃会計監査

総会発言

総会では六分野からの報告がありました。そのなかから二人の発言を紹介します。

中学卒業まで

子どもの医療費を無料に

新婦人久留米支部 稲光良子さん



子どもの医療を守る運動は、義務教育終了まで無料化を求めて署名および自治体要請を行っています。

業まで無料に、②各種任意予防接種を公費で助成、を求めて活動を行いました。

と各種任意予防接種の公費助成を求めて署名および自治体要請を行っています。

昨年六月から署名開始。久留米医師会の協力を得て、医療機関に署名用紙を届け、窓口で署名を集めてもらう、幼稚園・保育園にお願いして、保護者に配布・回収してもらう、大型ショッピングセンターで署名行動を行う等の取り組みで三、七四三筆

川柳

馬場 ゆうこ

空襲の怖さなんども語る母

ブロック塀気になる朝の散歩道

基地なくすことを誓った慰霊の日



昨年9月10日に久留米市で署名活動

の署名が集まりました。

一〇月四日、署名を久留米市に提出し、申し入れを行いました（参加者七人）。私たちは、署名集めを通して子育て世代だけでなく全世代の人たちが子どもの医療費の助成の拡充を求め

介護保険の総合事業

サービスを受ける権利を守りたい

くるめ医療生協 尾野 晃さん



二〇一七年四月より久留米市でも総合事業がスタート

し、要支援一・二の通所介護、訪問介護は介護保険制度から外れ市独自の制度での利用となりました。また、「卒業」という言葉が聞かれるようになり、ケアマネジャーの研修でも「卒

ていることを肌で感じていること、子育てトップクラスを目指す久留米市は、一日も早く中学校卒業まで医療費を完全に無料にしてほしいと申し入れました。それに対して例年通り、副市長から「皆さんと思いは同じです」との発言がありました。昨年度は具体的な前進はありませんでした。現在の最大の問題点は、中学生の医療費の自己負担金が三、五〇〇円と、とても高いことです。引き続き中学校卒業まで、子どもの医療費の完全無料化を目指す運動が求められます。今年度も引き続き署名活動に取り組みしていきます。

業を見据えたプラン作成」の研究が開催されました。本来は、サービス利用期限がきた時点の本人状態を見て、終了するか延長するか判断するのですが、先に利用する期限を決めて、期限がきたらサービス終了（卒業）となるのです。一定の動作が出来るようになることが目標であつて、卒業はそれに伴う結果であり、決して卒業は目標ではありません。

行事日程

七月二十日（金）十四時から

第二十六回九州玄海訴訟 於…佐賀地裁

七月二十一日（土）～二十三日（月）

第六十回自治体学校三福岡 於…福岡市民会館・西南学院 大学

七月二十二日（日）十一時から

福建労北筑後支部浮羽五十周年記念祝賀会 於…原鶴温泉 ホテルパールレンス

ません。

背景には費用の抑制があり、ケアマネジャーはその先頭に立て、そのような視点でケアプランを作成せよということ。介護保険制度は社会保障制度です。要支援・要介護認定を受けた方は、サービスを利用できる権利があります。利用者の権利を守るのがケアマネジャーです。

筑後地区社保協の自治体キャラバンの取り組みを通して、「おかしい」ことは「おかしい」と声をあげ、住民の生活と健康を守る自治体が自治体本来の姿に戻るよう運動を進めましょ